

研究種目：基盤研究（A）  
研究期間：2007 ～ 2010  
課題番号：19209066  
研究課題名（和文）患者と医療者が分かり合えるがんコミュニケーション促進モデルの開発と有用性検証  
研究課題名（英文）The care model improving quality of communication about cancer treatment and care between patients and health care professionals.  
研究代表者  
小松 浩子（KOMATSU HIROKO）  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号：60158300

研究代表者の専門分野：がん看護学  
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学  
キーワード：がん看護学、コミュニケーション、e-learning、

#### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、がん情報を患者 - 医療者間、患者 - 患者間において、確かで信頼できるやり取りや分かち合いが可能となる「分かりあえるがんコミュニケーション促進モデル」を開発し、有用性を検討することである。以下に具体的達成目標を記す。

##### (1) コミュニティにおけるがんコミュニケーションの構造的・機能的特徴の焦点化<平成 19 年～20 年度>

地域コミュニティおよびインターネット上のバーチャルコミュニティにおいて、個人（市民、患者、家族）、個人間（患者-医療者、患者-患者、患者-家族など）、コミュニティ内で乳がん医療・ケアに関して、どのような関心事、情報ニーズがあるのか、また、活用する上でどのような障壁や困難を感じているのか、文献的考察ならびにヒアリング調査により把握・分析し、がんコミュニケーションの構造的・機能的特徴を焦点化する。

##### (2) 分かり合えるがんコミュニケーションを促進するシステムモデルの開発<平成 20～21 年度>

がんコミュニケーションの構造的・機能的特徴に基づき、「分かり合えるがんコミュニケーション促進モデル」の構造化を行う。モデルは、がんコミュニケーションの効果性・効率性を高めるハード面のシステムとがんコミュニケーションの個別性や文脈性を考慮した持続可能性を促進するソフト面のシステムからなる。

##### (3) コミュニティにおける「分かり合えるがんコミュニケーション促進モデル」の効果検

#### 証<平成 21～22 年度>

A.がんコミュニケーションの効果性・効率性を高めるハード面のシステム開発と有用性の検証を行う。B. 個別性や文脈性を考慮したコミュニケーションの持続可能性を促進するソフト面のシステム開発と有用性の検証を行う。

#### 2. 研究の進捗状況

##### (1) コミュニティにおけるがんコミュニケーションの構造的・機能的特徴の焦点化

システマティックレビュー、がん健康情報ケアプログラム開発を先進的に行っているカナダの Princes Margaret Hospital ならびに Cancer Care Ontario におけるヒアリング調査を実施した。その結果、がん健康情報システムに関する主要ニーズは、「意思決定の時機あった最新情報獲得」<療養生活上の変化に備え、先駆けるセルフケア情報獲得> <情報システムの効果的な活用をナビゲートしてくれる人・教育・システムの整備> <双方向で情報をシェアできるシステムの整備> などに分類できた。併せて、インターネット上のがんコミュニケーションに関する網羅的検索・分析により、がん体験者間で曖昧な医療情報の錯綜が顕著であり、情報の信憑性、当事者の思い込み・曲解の是正をもたらすために医療者のエビデンスと統合できる新しいがんコミュニティサイトの開発が必須と考えた。

##### (2) 分かり合えるがんコミュニケーションを促進するシステムモデルの開発

乳がん体験者を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、「分かり合えるが

んコミュニケーションを促進するシステム  
>に必要な要素と方略を抽出し、モデルとして構造化した。モデルに基づき、がんに関する建設的な社会意識向上をめざした、がんコミュニティ（治療だけでなく、生活や生き方を支えるコミュニティ：<http://www.gancommunity.com>）サイトを開設した。さらに、サイト上に、e-learningによるがんコミュニケーション自己学習システムツールの開発を行った。

### (3)コミュニティにおける「分かり合えるがんコミュニケーション促進モデル」の効果検証

がんコミュニティサイトの運用と評価を実施し、サイト利用者間における<がんコミュニケーション>の相談事例データベースを蓄積し、がんに関する情報や相談の発展パターン（掛け違いや翻弄、問題の解決、支えあいの広がり等）の分析、相談による解決事例に関する情報内容・解釈、掛け違いや混乱に関連する要素など、の分析により、モデルの構造面に関する効果を前向き調査している。e-learningによるがんコミュニケーション自己学習システムツールの検証のために、Learning Management SystemとしてMoodleを採用し、「患者と医療者が分かり合えるコミュニケーション」コンテンツを完成させた。

#### 3. 現在までの達成度

<区分> やや遅れている。

<理由> 「分かり合えるがんコミュニケーション促進モデル」の実用化に際し、個別性や文脈性を重要視したため、がんコミュニティサイトおよびがんコミュニケーション自己学習システムツールの開発に時間を要した。最終年度に、がんコミュニティサイトにおいてがんコミュニケーション自己学習システムツールを運用し、QOL、医療満足度などどのような効果があるかを検証する。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1) がんコミュニケーションは、がんの種類、進行度により情報のやり取り、内容の深まり方のパターンが異なる。したがって、がんコミュニケーション自己学習システムツールの効果検証は、治療過程にある乳がん女性に対象を限定して実施する。

(2) 実験的デザインによる無作為化比較試験を実施する予定であるが、モデルの長期効果の時期について再検討を行う。あるいは、前向き追跡によるアウトカムリサーチを実施する。

#### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計3件)

Hiroko Komatsu, Five years activities of St. Luke's College of Nursing 21st Century COE program: Creation of People-Centered Care, Japan Journal of Nursing Science, 5(2), 117 - 122,2008,有

Hiroko Komatsu, Developmental Process of People-Centered Care, Japan Journal of Nursing Science, 5(2),137 - 142,2008,有

Ki Kyung Kim, Chung Yul Lee, Kwang Sook Kim, Yoon Hee Cho, Hiroko Komatsu, et al, Chao Perception on Development of Hospice Law of Hospice Nurses in Hospice Institutions, Journal of Nursing Management, 14(3) , 332 - 343,2008,有

〔学会発表〕(計3件)

Wakako Ichikawa, Hiroko Komatsu, The Development of an Educational Program for Cancer Support Peer Leaders, 15<sup>th</sup> International Conference on Cancer Nursing, 2008.8.19, Singapore.

Kaori Yagasaki, Hiroko Komatsu, Mikazu Yamato, et al, Role Development and Evaluation of Resource Nurse in Multidisciplinary Approach to Breast Cancer: Application of Patient-Health Care Professionals Information Sharing System, 15th International Conference on Cancer Nursing, Singapore, 2008.8.19.

Kumi Suzuki, Hiroko Komatsu, et al, Educational Interventions Promoting Breast Awareness and Breast Self-Examination: A Literature Review, 15th International Conference on Cancer Nursing, Singapore, 2008.8.19 .

〔図書〕(計0件)

〔その他〕

ホームページ：[がんコミュニティサイト](http://www.gancommunity.com)  
<http://www.gancommunity.com>